

陸連時報 五三

2015
平成27年

5 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

2015年度主要競技会日程	198
理事会報告	199
2015年シーズンの抱負(強化委員会)	202
強化関連情報(強化委員会)	204
U19オリンピック育成競技者長距離海外研修合宿(オーストラリア・メルボルン)報告 (強化委員会強化育成部副部長 荻原知紀)	
U19オリンピック育成競技者海外研修合宿(オーストラリア・シドニー)報告 (強化委員会強化育成部長 山崎一彦)	
U16ジュニアブロック研修合宿報告(普及育成委員会普及育成部副部長 舟橋昭太)	206
アジア陸上競技連盟(AAA)理事会報告(国際委員長 田中克之)	208
国際陸上競技連盟(IAAF)競歩委員会会議報告(強化委員会競歩部長 今村文男)	209
大会観戦ガイド	211
陸協NEWS	212
事務局からのお知らせ	214

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2015年度主要競技会日程

	主催競技会			主要競技会			国際競技会		
	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所
4月	19(日)	99 日本選手権50km競歩	石川	4(土)★	24 金栗記念選抜中・長距離	県民総合(熊本)			
	19(日)	17 長野マラソン	長野	11(土)~12(日)★	69 出雲陸上	浜山(鳥根)			
				18(土)~19(日)★	GP① 織田記念陸上	広域公園(広島)			
				25(土)~26(日)★	GP② 日本選抜陸上和歌山	紀三井寺(和歌山)			
				25(土)~26(日)★	GP③ 兵庫リレーカーニバル	ユニバー記念(兵庫)			
5月	10(日)	ゴールデングランプリ	等々力(神奈川)	3(日)★	GP④ 静岡国際陸上	エコパ(静岡)	2(土)~3(日)	ワールドリレーズ	ナッソー(バハマ)
				9(土)★	ゴールデングেমズ in のべおか	延岡(宮崎)	8(金)~11(月)	アジアユース陸上競技選手権	ドーハ(カタール)
				10(日)★	25 仙台国際ハーフマラソン	宮城			
				17(日)★	5 ぎふ清流ハーフマラソン	岐阜			
6月				31(日)★	'15 水戸招待陸上	Kスタ水戸(茨城)			
	26(金)~28(日)	99 日本陸上競技選手権	デンカビッグスワンスタジアム(新潟)	12(金)~14(日)○	'15 日本学生個人	平塚(神奈川)	3(水)~7(日)	21 アジア陸上競技選手権	武漢(中国)
				28(日)★	30 サロマ湖100kmウルトラマラソン	北海道	22(月)	アジアグランプリ①	バトゥムターナー(タイ)
7月	4(土)~5(日)	99 日本陸上競技選手権混成	長野市営(長野)				25(木)	アジアグランプリ②	アユタヤ(タイ)
	4(土)~5(日)	31 日本ジュニア選手権混成	長野市営(長野)				29(月)	アジアグランプリ③	バンコク(タイ)
	12(日)	2 日中韓3カ国交流陸上	厚別(北海道)	12(日)★	28 南部記念陸上	厚別(北海道)	8(水)~12(日)	28 ユニバーシアード	光州(韓国)
	29(水)~8/2(日)	68 全国高校陸上	紀三井寺(和歌山)	25(土)★	55 実業団・学生対抗	平塚(神奈川)	15(水)~19(日)	9 世界ユース陸上競技選手権	カリ(コロンビア)
8月	13(木)~15(土)	50 全国定通制高校陸上	駒沢(東京)				5(水)~16(日)	21 世界マスターズ選手権	リヨン(フランス)
	18(火)~21(金)	42 全国中学陸上	厚別(北海道)	2(日)★	40 蔵王坊平クロスカントリー	上山(山形)			
	22(土)	31 全国小学生陸上	日産スタジアム(神奈川)				22(土)~30(日)	15 世界陸上競技選手権	北京(中国)
	29(土)~30(日)	3 全国高校陸上選抜	ヤンマーフィールド長屋(大阪)				23(日)~29(土)	23 日・韓・中ジュニア交流競技会	済州(韓国)
	29(土)~30(日)	50 全国高専陸上	博多の森(福岡)	30(日)★	'15 北海道マラソン	北海道			
9月				11(金)~13(日)○	84 日本学生対校	長屋(大阪)			
				25(金)~27(日)★	63 全日本実業団	長良川(岐阜)	12(土)	28 IAU100km世界選手権	ウェンスホーテン(オランダ)
10月	2(金)~6(火)	70 国民体育大会	紀三井寺(和歌山)	12(祝・月)○	27 出雲全日本大学選抜駅伝	島根			
	16(金)~18(日)	31 日本ジュニア選手権	瑞穂(愛知)						
	16(金)~18(日)	9 日本ユース選手権	瑞穂(愛知)	25(日)★	54 全日本50km競歩高島	山形			
	23(金)~25(日)	99 日本選手権リレー	日産スタジアム(神奈川)	25(日)★	5 大阪マラソン	大阪			
	23(金)~25(日)	46 ジュニアオリンピック	日産スタジアム(神奈川)	30(金)~11/1(日)★	33 全日本大学女子駅伝	宮城			
11月				1(日)○	47 全日本大学駅伝	愛知・三重			
	15(日)	国際女子マラソン(仮称)	埼玉(予定)	8(日)★	12 田島記念陸上	雄新百年記念(山口)			
	23(祝・月)	'15 国際千葉駅伝	千葉	8(日)★	31 東日本女子駅伝	福島			
				15(日)★	5 神戸マラソン	兵庫			
				13(日)★	27 全日本びわ湖クロスカントリー	希望が丘(滋賀)			
12月	6(日)	69 福岡国際マラソン	福岡	13(日)★	35 全日本実業団女子駅伝	宮城			
	13(日)	18 小学生クロスカントリーリレー	万博記念公園(大阪)	13(日)★	'15 長崎陸協競歩	県立総合(長崎)			
	13(日)	23 全国中学駅伝	山口	20(日)★	46 防府陸協マラソン	山口			
	20(日)	66 27 全国高校駅伝	京都	23(祝・水)	34 山陽女子ロードレース	岡山			
					'15 全日本大学女子選抜駅伝	静岡			
2016 1月	17(日)	34 都道府県対抗女子駅伝	京都	1(祝・金)	64 元旦競歩	東京			
	24(日)	21 都道府県対抗男子駅伝	広島	1(祝・金)	60 全日本実業団駅伝	群馬			
	31(日)	35 大阪国際女子マラソン	大阪	31(日)	'16 大阪ハーフマラソン	大阪			
2月	14(日)	51 千葉国際クロスカントリー	昭和の森(千葉)	7(日)	65 別大マラソン	大分	7	アジア室内選手権	
	21(日)	99 日本選手権男女20km競歩	兵庫	7(日)	70 香川丸亀国際ハーフマラソン	香川	13	アジアクロスカントリー	
	27(土)	30 福岡国際クロスカントリー	海の中道海浜公園(福岡)	14(日)	56 唐津10マイル	佐賀			
	28(日)	'16 東京マラソン	東京	14(日)	44 実業団ハーフマラソン	山口			
3月	6(日)	71 びわ湖毎日マラソン	滋賀	21(日)	50 青梅マラソン	東京			
	12(土)~13(日)	'16 日本ジュニア室内大阪	大阪城ホール(大阪)	21(日)	60 熊日30キロロードレース	熊本			
	13(日)	'16 名古屋ウィメンズマラソン	愛知	21(日)予定	'16 京都マラソン	京都			
	20(日)	40 全日本競歩能美	石川	6(日)○	19 日本学生ハーフマラソン	東京			
				20(日)○	10 日本学生20km競歩	石川	20(日)	'16 世界室内選手権	ポートランド(アメリカ)
			20(日)	37 まつえレディースハーフマラソン	島根		'16 アジア陸上競技選手権-20km競歩	能美(石川)	
						26(土)	22 世界ハーフマラソン選手権	カーディフ(イギリス)	

★=後援競技会、○=協力団体主要競技会

理事会報告

公益財団法人日本陸上競技連盟第26回理事会

日時：2015年3月11日（水）10時00分～12時17分

場所：小田急第一生命ビル11階会議室

理事総数29名中出席者24名、理事会の成立を風間事務局長が報告。

【協議事項】

1. 第5期収支予算

尾縣専務理事より事業計画、杉本財務委員長より収支予算について次の説明があり、原案通り承認された。

尾縣専務理事より事業計画の説明があった。

陸上競技のさらなる発展のために、普及活動並びに選手の競技力強化という2大柱を支える組織基盤の確立を目指し、相互の好循環を生み出すように各事業に取り組んでいく。

主な諸事業は、以下のとおり。

(1) 陸上競技の普及及び指導者の育成に関する事業

①小学生陸上競技交流大会及び小学生クロスカントリー大会

②JAAFアスリート発掘・育成プロジェクト
U-13クリニックを全国で9会場、U-16クリニックを10会場で実施する。

③キッズアスリート・プロジェクト「夢の陸上キャラバン隊」

2013年度をもって全都道府県を一巡して終了したが、昨年は、日本選手権の開催記念メモリアルイベントとして実施した。今年度は、日本選手権開催地である新潟において、新潟陸上競技協会と協力し実施する。

④指導者講習会

公認スポーツ指導者の養成として、JAAF公認ジュニアコーチ講習会を全国12会場で実施する。

(2) 陸上競技の競技力の向上に関する事業並びに陸上競技の国際競技大会等に対する代表参加者の選定及び派遣に関する事業

オリンピックの前年開催となる北京世界選手権において目標が達成できるように、各ブロック及び部門間の連携を強化しながら、強化事業を推進していく。

2020年東京オリンピックに向けて、新しい強化システムの枠組みを作るために2020東京オリンピックプロジェクトとして推進していく。

①選手強化

・ゴールドアスリート、シルバーアスリートを設定して、個人強化費を支給する。

・経済的な理由で競技を続けることが困難な競技者に対して「スポーツ活動支援制度」として、経済面のサポートをする。

・2020年を考えて、海外合宿及び国際競技会への派遣を重視する。

強化委員会強化育成部は、2020東京オリンピックプロジェクトとの連携を強め、オリンピック育成競技者及びダイヤモンドアスリートなどのオリンピック予備軍を集中的に強化育成していく。

②国際競技会への代表参加者選定及び派遣

③医科学サポート

・競技力向上のために、科学サポートと医学サポートを強化していく。

・ドーピング防止活動として、積極的な教育、啓発活動を図っていく。

(3) 国際競技大会、日本選手権大会及びその他の競技会の

開催に関する事業

①IAAFワールドチャレンジ第3戦のゴールデングラプリを川崎で開催する。

日本選手権を新潟で開催する他、小学生の競技会から国際競技大会まで全35競技会を主催する。

②会員登録は、中学生の全員登録と会員数40万人突破を目指す。

③競技規則の制定及びルールブックの発行

④競技会の公平性と記録の信頼性を保つことを目的として競技施設の公認と器具の検定を行う。今年度から、長距離競走路と競歩路の検定及び公認は、公認競技会を開催するコースに限り実施する。

⑤2020年東京オリンピックに向け、レベルの高い競技会運営を目指し、JTOやJRWJの育成に力を入れる。

⑥記録の公認

(4) その他の事業

①機関誌の発行及び広報の拡充

②加盟団体(都道府県陸上競技協会)の法人化
45加盟団体が法人格を取得した。今期、全加盟団体の法人化を目指す。

③国際的な活動

国際陸上競技連盟とアジア陸上競技連盟へ、積極的に役員や委員を投入する。

杉本財務委員長より、第5期予算編成について説明があった。事業費、管理費ともに19億4870万円となり、当期経常増減額は、前期同様±0円となる。

(1) 経常収益

①基本財産運用収益は300万円。基本財産12億円に対する利息収入。

②登録料受入収益は2550万円。登録会員からの登録料収入は、一般と大学生が各100円、高校と中学生が各50円。登録者数が年々増えていることから、150万円増額した。

③加盟金受入収益は470万円。1加盟団体から10万円の加盟金を納めて頂いている。

④受取寄付金は200万円。民間企業からの寄付金。

⑤受取委託金・助成金は、2億7950万円。日本体育協会、日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センターからの委託金・助成金収入。

⑥事業収益は15億7790万円。オフィシャルスポンサー料と競技会での協賛金、参加料、入場料収益、放送権料などが主な収入。

⑦その他事業収益は4870万円。器具検定料、競技場公認料、ナンバーカード広告料、後援名義使用料等の収入。

(2) 経常費用

①事業費は18億5783万円。競技会予算、委員会予算、広報予算、加盟団体の地域活性化対策費、キッズアスリート・プロジェクトやアワードなどイベントに関する費用。

広報予算は、公式ホームページの全面リニューアル費用1800万円を計上。

昨年同様に、地域支援金は、都道府県陸上競技協会に各100万円を交付する。

②管理費の事務局運営費などは9087万円。

(3) 各委員会予算

総務委員会30万円、強化委員会5億661万円、法制委

員会54万円、財務委員会58万円、競技運営委員会1231万円、普及育成委員会6432万円、国際委員会80万円、施設用器具委員会987万円、科学委員会1189万円、医事委員会1839万円

2. 2015年度主要競技会日程

尾縣専務理事より説明があり、原案通り承認された。

11月開催予定で埼玉開催予定の国際女子マラソンと同月開催予定の国際千葉駅伝についての詳細は未定。

3. 2014年度栄章

尾縣専務理事より説明があり、原案通り承認された。

功労章3名、秩父宮章35名、高校優秀指導者章47名、中学優秀指導者章47名、高校優秀選手章47名、中学優秀選手章47名、日本記録章延9名と1チーム、室内日本記録章延2名、ジュニア日本記録章4名と1チーム、ジュニア室内日本記録延4名

4. 第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）のT&F種目の日本代表選手選考要項

原田強化委員長より説明があり、原案通り承認された。

第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）トラック&フィールド種目代表選手選考要項

1. 編成方針

第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）（以下、「本大会」という）及び、第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）（以下、「リオデジャネイロオリンピック」という）での活躍が期待できる競技者を中心として、メダル獲得及び入賞を目指すチームを編成する。

2. 選考競技会

- (1) 第17回アジア競技大会（2014／仁川）
- (2) 第99回日本陸上競技選手権大会（2015／新潟）
- (3) 第99回日本陸上競技選手権大会・混成競技（2015／長野）
- (4) 2015日本グランプリシリーズ（2015／広島・和歌山・兵庫・静岡）
- (5) セイコーゴールデングランプリ陸上2015川崎
※オープン種目女子400mHも含む
- (6) 2015ワールドリレーズ（2015／ナッソー）
※男女4×100mリレー及び男女4×400mリレーのみ対象
- (7) 第21回アジア陸上競技選手権大会（2015／武漢）

3. 選考基準

編成方針に基づき、下記の優先順位で第99回日本陸上競技選手権大会（2015／新潟）（以下、「日本選手権」という）に出場した競技者の中から日本代表選手を選考する。

- (1) 日本選手権終了時点の選考条件
 - 1) 日本選手権で8位入賞し、派遣設定記録を満たした最上位競技者
 - 2) 日本選手権で優勝し、参加標準記録を満たした競技者
 - 3) 第17回アジア競技大会（2014／仁川）（以下、「仁川アジア大会」という）の個人種目で優勝し、参加標準記録を満たし、日本選手権で8位入賞した競技者
 - 4) 日本選手権で8位入賞し、派遣設定記録を満たした競技者
 - 5) 第21回アジア陸上競技選手権大会（2015／武漢）（以下、「武漢アジア選手権」という）の個人種目で優勝した競技者
 - 6) 日本選手権で3位以内、または2015日本グランプリシリーズ及びゴールデングランプリ陸上2015川崎（以下、「ゴールデングランプリ」という）において日本人1位の成績を取め、参加標準記録を満たした競技者
※選考基準（1）の1）、4）、6）における2015ワールドリレーズに派遣された競技者が出場した種目の選考は、2015ワールドリレーズ派遣選手を優先して選考する。また、1）において、ワールドリレーズに派遣された競技者が8位以内に入賞した場合は、2015ワールドリレーズに派遣された競技者の中で最上位競技者を選考する。
- (2) 日本選手権以降の追加条件（2015年8月2日まで）
 - 1) 日本選手権で8位入賞し、派遣設定記録を満たした最上位競技者
 - 2) 日本選手権で優勝し、参加標準記録を満たした競技者
 - 3) 仁川アジア大会の個人種目で優勝者し、参加標準記録を満たし、日本選手権で8位入賞した競技者
 - 4) 日本選手権で8位入賞し、派遣設定記録を満たした競技者
 - 5) 日本選手権で3位以内、または2015日本グランプリシリー

ズ及びゴールデングランプリにおいて日本人1位の成績を取め、参加標準記録を満たした競技者

※選考基準（2）の1）、4）、5）におけるワールドリレーズに派遣された競技者が出場した種目の選考は、2015ワールドリレーズ派遣選手を優先して選考する。また、1）において、ワールドリレーズに派遣された競技者が8位以内に入賞した場合は、ワールドリレーズに派遣された競技者の中で最上位競技者を選考する。

- (3) IAAFへのファイナルエントリー後のInvitationによる追加条件（5000m、10000m以外）

2015年8月10日以降、国際陸上競技連盟（以下、「IAAF」）からinvitationを受け、日本選手権で3位以内、または2015日本グランプリシリーズ及びゴールデングランプリにおいて日本人1位の競技者で、下記の条件を満たしたものを追加する。

- 1) 男女100m、男女200m、男女400m
 - ①選考基準（4）で既にリレー要員として選考されている競技者
 - ②強化委員会が推薦する競技者
- 2) 男女800m、男女1500m、男女3000mSC、男子110mH、女子100mH、男女400mH
 - ①下記の記録を参加標準記録有効期間に満たした競技者、または選考基準（4）でリレー要員として選考されている競技者

男子		女子	
種目	記録	種目	記録
800m	1.46.10	800m	2.01.50
1500m	3.37.30	1500m	4.07.50
3000mSC	8.29.00	3000mSC	9.48.00
110mH	13.55	100mH	13.05
400mH	49.60	400mH	56.60

②強化委員会が推薦する競技者

- 3) その他のフィールド種目及び混成競技 invitationを受けた全ての競技者
- (4) リレー種目の選考
リレー要員の代表選手は、種目特性から原則ナショナルリレーチームの競技者

4. 選考方法

- (1) 日本選手権終了時点の選考
 - 1) 選考基準（1）の1）、2）、3）による選考は、該当者が3名以内の場合に即時内定とする。ただし、該当者が3名以上の場合は、日本選手権終了後、編成方針及び選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会にて選考し、理事会において決定する。
 - 2) 選考基準（1）の4）、5）、6）による選考は、日本選手権終了後、編成方針及び選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会にて選考し、理事会において決定する。

- (2) 日本選手権以降の追加
選考基準(1)でIAAFの定める各種目の出場可能人数を満たさなかった場合、本連盟が定める参加標準記録有効期間終了時点で、編成方針及び選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会で決定する。
- (3) IAAFへのファイナルエントリー後の Invitation による追加 (5000m、10000m以外)
選考基準(1)及び(2)でIAAFの定める各種目の出場可能人数を満たさなかった場合、IAAFから Invitation を受け次第、選考基準(3)を満たす競技者を代表選手として決定する。
- (4) リレー要員の選考
本連盟が定める参加標準記録有効期間終了時点で、編成方針及び選考基準(4)に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会で決定する。
ただし、リレー種目の派遣は、個人種目のエントリー状況などから総合的に判断し、派遣を検討する。

5. 補足

- (1) 本連盟が定める参加標準記録及び派遣設定記録の有効期間は、下記の通り。
ただし、IAAFが定める参加標準記録の有効期間及びファイナルエントリー提出期限は2015年8月10日まで。
10000m、混成競技：2014年1月1日～2015年8月2日
その他の種目：2014年10月1日～2015年8月2日
- (2) 派遣設定記録とは、本連盟が定める、世界ランキング12位相当の記録。
- (3) 本大会の個人種目において8位入賞した日本人最上位の男女各1名の選手を、リオデジャネイロオリンピック代表選手に条件付きで内定する。
- (4) 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消すことがある。
- (5) 本大会は、2015年8月22日～8月30日まで北京(中国)で開催される。
- (6) 代表選手の派遣人数は、IAAFが定める各種目の出場可能人数の上限の枠を保証するものではない。

第15回世界陸上競技選手権(2015/北京)トラック&フィールド種目 参加標準記録・派遣設定記録

男子		種目	女子	
派遣設定記録	参加標準記録		派遣設定記録	参加標準記録
10.01	10.16	100m	11.09	11.33
20.28	20.50	200m	22.60	23.20
44.89	45.50	400m	50.59	52.00
1.43.98	1.46.00	800m	1.58.86	2.01.00
3.32.95	3.36.20 (3.53.30)	1500m	4.02.15	4.06.50 (4.25.20)
13.06.63	13.23.00	5000m	15.06.34	15.20.00
27.31.43	27.45.00	10000m	31.23.17	32.00.00
13.30	13.47	110mH/100mH	12.75	13.00
48.74	49.50	400mH	54.66	56.20
8.14.86	8.28.00	3000mSC	9.26.42	9.44.00
2.31	2.28	走高跳	1.94	1.94
5.70	5.65	棒高跳	4.60	4.50
8.26	8.10	走幅跳	6.84	6.70
17.21	16.90	三段跳	14.48	14.20
20.87	20.45	砲丸投	19.07	17.75
66.53	65.00	円盤投	63.94	61.00
79.11	76.00	ハンマー投	73.39	70.00
84.32	82.00	やり投	63.34	61.00
8311	8075	十種競技/七種競技	6325	6075
2014ワールドリレーズ上位8ヶ国 + IAAFランキング上位8ヶ国		4×100mリレー	2014ワールドリレーズ上位8ヶ国 + IAAFランキング上位8ヶ国	
2014ワールドリレーズ上位8ヶ国 + IAAFランキング上位8ヶ国		4×400mリレー	2014ワールドリレーズ上位8ヶ国 + IAAFランキング上位8ヶ国	

※1500mの()内の記録は1マイル ※男子4×100mリレーは、既に出場権を獲得済み。

5. 評議員会の開催

2015年3月11日 評議員会
2015年6月17日 定時評議員会

【報告事項】

1. 未成年競技者親権者からのドーピング検査に対する同意書

山澤医事委員長より説明があった。
前回理事会で説明した通り、世界及び日本アンチドーピング機構の規程改定により、未成年競技者が競技会に参加する際、親権者からドーピング検査に関する同意書を取得することになった。
本連盟の対応方法。

①競技会に参加する未成年競技者と親権者は、同意書を熟読し、署名捺印の上、同意書の原本を競技会に持参し携帯する。

②未成年競技者は、ドーピング検査に指名された時、その同意書の原本を提出する。
尚、競技会会場で原本の提出がなくとも、検査は行われるが、検査後7日以内に本連盟事務局に原本を提出する。

2. 2015年度の強化競技者

原田強化委員長より説明があった。
ゴールドアスリート4名：新井涼平(スズキ浜松AC)、鈴木雄介(富士通)、高橋英輝(岩手大学)、福土加代子(ワコール)
シルバーアスリート7名：今井正人(トヨタ自動車九州)、戸

邊直人(千葉陸協)、谷井孝行(自衛隊体育学校)、荒井広宙(自衛隊体育学校)、吉田琢哉(盛岡市役所)、右代啓祐(スズキ浜松AC)、前田彩里(ダイハツ)

3. 第21回アジア陸上競技選手権大会(2015/武漢)の日本代表選手選考要項の改訂

原田強化委員長より、選考競技会のセイコーゴールデングランプリ陸上2015川崎に女子400mハードルを追加することの説明があった。

4. 第41回世界クロスカントリー選手権大会(2015/貴陽)の日本代表選手団

原田強化委員長より、選手団の役員11名、選手21名(男子9名、女子12名)の説明があった。

5. スポーツ活動支援制度の支援対象競技者

原田強化委員長より説明があった。
・2014年度対象者の山元隼(中京大クラブ)の活動報告
・2015年度対象者：山元隼(中京大クラブ)、宮坂楓(横浜国立大学)

6. S級公認審判員昇格者

吉儀競技運営委員長より説明があった。
都道府県陸上競技協会からの推薦者241名に対して、S級昇格者は238名であった。

2015年シーズンの抱負

強化委員会

中距離ブロック

部長 平田和光

2015年度中距離強化の強化方針は、以下の点を中心に進めていければと思っている。

1. 北京世界選手権・リオデジャネイロオリンピックに向けた重点強化と標準記録突破・陸連が定める派遣設定記録突破
2. 400mから800mへ、800mから1500mへ、種目を移行して、1段階上のスピードを持ったリオデジャネイロオリンピックにつながる競技者を育成
3. リオデジャネイロ・東京を見据えて、育成強化から重点強化の連携が必要になってくるので、中距離チーム構想の中、国立科学スポーツ科学センター（JISS）及び味の素ナショナルトレーニングセンター（味の素NTC）を拠点として長期的に活用していく
4. JISSにおける医・科学データの活用と情報収集の徹底
5. 種目間を超えたタレント性のある選手の種目転向とその基礎的データの蓄積と情報提供

北京世界選手権・リオデジャネイロオリンピックに向けた重点強化選手は、男子800mの川元奨選手（日本大学→スズキ浜松AC）とし、国際大会で最高のパフォーマンスが発揮できるように、国際大会・海外合宿等経験をさせていく。そしてリオデジャネイロオリンピックに向けた目標である準決勝進出を目指す。今年は横田真人選手（富士通）も順調に冬季トレーニングが実施できており、高いレベルの中での戦いが期待している。女子800mは、真下まなみ選手（セレスポ）、大森郁香選手（ロETTE）、男子1500mは、楠康成選手（小森コーポレーション）、女子1500mは、陣内綾子選手（九電工）、須永千尋選手（資生堂）等中距離種目を中心に取組んでいる若手・ベテランの有望選手も冬季トレーニングは順調にきている。北京世界選手権の標準記録突破等为目标に設定レース等で挑戦する。併せてJISS及び味の素NTCを拠点に定期的に巡回指導しサポートしていく。

種目を移行して1段階上のスピードを持った選手の発掘と育成で、短距離部・長距離マラソン部と連携を図り、情報の共有を図っていきたい。併せて種目間を超えたタレント性のある選手の種目転換についても、各部門との連携をより一層強め情報の共有を図っていかねばならないと思っている。

強化育成部との連携も含めた育成強化については、1年後のリオデジャネイロオリンピック、5年後の東京オリンピックに向けた若手選手の育成を強化育成部とより連携を深めて、研修合宿等（体力測定・レース分析・各種フィードバック）を定期的実施し情報共有及び意見交換を行ないながら効率よく育成を行なえる中距離強化・強化育成部と連携した育成システムが構築していければと思う。

JISS及び味の素NTCを拠点として、今年度も中距離では研修合宿を充実させ、陸連強化・医科学・専任コーチと連携を図り選手をサポート強化していければと思う。サポート内容としては、強化関連行事への優先的な派遣（強化研修合宿・国際大会・海外合宿・設定レース）、定期的な科学的サポート・フィードバック、強化に関する情報提供（レース分析・主要国際大会前の情報提供）を図っていく。

JISSにおいて医・科学データを蓄積してきているが、しっかりと現場でトレーニング等に活用できるように、フィードバック体制を整え情報提供できればと思っている。

最後に、中距離が「チームジャパン」として世界で戦えるよう、中距離独自の強化システム（陸連強化⇔医科学⇔専任コーチの連携と意思統一）の構築を積極的に進めていきたい。

男子長距離・マラソンブロック

部長 宗 猛

2014年度のシーズンは、仁川アジア大会で男子マラソンがしっかり結果を残してくれた。レースでは終始先頭集団にいた松村

康平選手（三菱重工長崎）が2時間12分39秒で銀メダルを獲得。日本勢として7大会ぶりの金メダルはならなかったが、トラック最終周で先頭からわずかに1秒差という接戦を演じた。3位には、川内優輝選手（埼玉県庁）が続き表彰台の一角を担うことができた。

長距離では、同じく仁川アジア大会10000mで大迫傑選手（日清食品グループ）がシーズンベスト記録の28分11秒94で銀メダルを獲得した。単身海外で生活を送り、世界のトップレベルの選手たちと対等に練習を行うことで速さと強さを兼ね備えた選手となってきたのではないかと実感している。特に、仁川アジア大会前に3000mで実に15年ぶりとなる日本記録を更新したことは、特筆に値する。仁川アジア大会では、優勝した種目こそ無かったが、5000m、3000mSCを含め出場した種目すべてにおいて入賞することができた。近年、長距離・マラソンにおいては、アフリカ勢の強さが飛び抜けているが、夏の暑い時期のレースでは、日本人でも戦えるチャンスがあると感じた。

マラソンにおいては、一昨年よりナショナルチームを立ち上げ、12名の選手が夏に合同合宿を行ってきた。2015年のシーズンにおいても、新たな選手を迎え入れ、新生ナショナルチームとして始動していきたい。大きな流れは、昨年と同様であり、合宿時には、科学委員会の支援のもと選手に対し暑熱対策を実施・測定を行う予定である。北京世界選手権でのメダル獲得に向けたこのような暑さに対する科学的なアプローチは急務であり、夏のマラソンで如何に勝負するかがカギとなると考えている。ナショナルチームでは、選手・専任コーチはもとより科学委員会、医事委員会及び強化スタッフが連絡を密にして、競技力の向上につなげるとともに代表としての意識を高く持ち、今後も継続して強化に取り組みしていきたい。

既に、マラソンの北京世界選手権の代表は決定しているが、トラック種目においても2015年シーズン前半の日本グランプリシリーズで派遣設定記録を突破し、ひとりでも多くの選手が世界を経験することで、北京世界選手権から次のリオデジャネイロオリンピックへつなげて欲しい。また、強化育成部との連携により、U23の選手をシニアと同等のレベルでフォローし、ダイヤモンドアスリートと同様に早い段階から海外での経験を多く積ませ、10年以上破られていない10000mとマラソンの日本記録更新に期待し、東京オリンピックへの足掛かりとしたい。

女子長距離・マラソンブロック

部長 武富 豊

2015年はリオデジャネイロオリンピックを占う上でも非常に重要な北京世界選手権が控えている。女子長距離・マラソンとして世界で戦う為にロンドンオリンピック前から合同合宿を行い科学委員会の協力を受け、レース対策や練習の共有などを実施して来た。

今年の北京世界選手権は、リオデジャネイロオリンピックに向けた強化の最終年として、マラソンではメダル・長距離種目では入賞を目標に取り組みで行きたいと思っている。

女子5000m・10000mではすでに参加標準記録を突破している選手が出てはいるが、確実に8位入賞を狙える実力までには到達していないのが現状だと思う。入賞の可能性を見出す為には、新谷仁美選手が見せたモスクワ世界選手権10000mでの積極的な走りを再現できるかが課題になる。それには4月から6月の日本選手権までの数少ないレースで上位選手が積極的な走りを行い、北京世界選手権でのレースをイメージした戦いの中から代表を獲得する姿勢が重要だと考えている。

マラソン代表の3選手には、日本人最上位で8位以内に入賞すれば、リオデジャネイロオリンピックの代表の権利を得られる重要な大会でもあり、大会に臨む意気込みは野口みずき（シスメックス）・福士加代子（ワコール）・木崎良子（ダイハツ）

の3選手の出場は無かったものの国内選考会での走りにも表れた様に感じる。この勢いに乗って、今年もナショナルチーム合宿を含めた強化合宿を実施し、2時間20分を突破した野口選手の練習内容を専任コーチも含め、少しでもそのレベルに近づき、より多くの選手がリオデジャネイロオリンピックの設定記録(2時間22分30秒)を突破し、よりレベルの高い国内でのレースを見せて欲しい。

また、もう一つの課題として2015年～2016年のリオデジャネイロオリンピックまでの結果が、東京オリンピック(2020年)に向けた強化の方向性が問われる重要な年になるとの考えで、練習内容の共有は勿論、科学委員会・医事委員会との連携を密にし、暑熱対策やコンディショニングの方法など、今まで蓄積したデータを実践し、結果の分析などを行い、東京オリンピックへの取り組み方などを現場へ浸透させて改善して行く必要があり、専任コーチ・選手の協力をお願いしたい。

競歩ブロック

部長 今村文男

2014年シーズンを振り返ると5月に中国・太倉市で開催されたワールドカップ競歩において、個人戦で鈴木雄介選手(富士通)が4位入賞を果たし、団体戦においては、競歩史上初の銅メダルを獲得し、強化育成部においては、7月にアメリカ・ユージンで行われた世界ジュニア選手権男子10000m競歩で松永大介選手(東洋大学)が金メダルを獲得、8月に中国・南京で開催されたユースオリンピック男子10000m競歩においては小野川稔選手(東京実業高校)が金メダルを獲得した。そして、9月に韓国・仁川で開催された最重要国際競技会であるアジア大会では、谷井孝行選手(自衛隊体育学校)が、男子50km競歩において競歩史上初の金メダルを獲得、鈴木雄介選手(富士通)が男子20km競歩で銀メダルを獲得するなど男子競歩においては、2016年リオデジャネイロオリンピックへ向けた強化施策の成果を感じることであった。また、直近の世界ランキングに基づいて指定される2015年度強化競技者ゴールドには、鈴木雄介選手(富士通)、高橋英輝選手(岩手大学→富士通)ら2名が指定され、強化競技者シルバーには、谷井孝行選手、荒井広宙選手(ともに自衛隊体育学校)、吉田琢哉選手(盛岡市役所)、藤澤勇選手(ALSOK)、松永大介選手(東洋大学)、小林快選手(早稲田大学→ビックカメラ)、丸尾知司選手(和歌山県教育庁)、野田明宏選手(明治大学)ら8名が指定され、多数精鋭化している。

そこで、2015年シーズンは北京世界選手権やリオデジャネイロオリンピックにおけるメダル獲得に向けた強化事業の展開や強化のサポート体制作りを第一に考え、次の強化方針と施策を優先して取り組みたいと考えている。

基本的な強化方針として、強化競技者の個人強化とブロック強化を連動させながら、期分けに基づき事業展開をしていきたい。そのための強化施策として次の3つを重点強化事項とし実施していく予定である。

- ① 種目別強化の実施。強化競技者およびブロック強化対象者を中心とし、男子50km競歩においては、少数精鋭の合同合宿を実施し、男女20km競歩では、味の素NTCおよびJISSを拠点とした歩型およびフィジカル面の強化に特化した短期集中型の合宿。
- ② 種目トランスファーの促進。2016年リオデジャネイロオリンピックは元より2020年東京オリンピックにつながるU19/U23競技者の重点強化を視野に入れつつ、種目トランスファー(20km競歩から50km競歩へ)を意識した合宿を展開し、新たなタレントの発掘や育成強化を促進させたい。

- ③ 医・科学サポートの推進。ナショナルマラソンチームでも重要視されている医事委員会・科学委員会および情報部との連携を図りながら、2016年リオデジャネイロオリンピックへ向けた種々の医科学サポートの推進と情報収集・分析を促進していきたいと考えている。また、女子競歩においては、岡田久美子選手(ビックカメラ)や井上麗選手(天満屋)など世界で戦う意識を持った楽しみな存在の競技者があり、日常の現場サポートや訪問指導の実施、短期の合同合宿を通して次のステージへ引き上げていきたいと考えている。

情報部

部長 石塚 浩

2015年最大の国際競技会は、8月22日～30日に中国・北京市で開催される世界選手権であろう。そして、その2ヶ月前となる6月3日～7日には、アジア選手権が同じ中国の武漢市で開催される。世界選手権での日本選手の活躍は、メディア等での扱われ方も大きく、世間の注目を浴びるものである。しかし、昨年の仁川アジア大会で金メダル3個という結果に終わったこと。そして、他国からの国籍変更を中心とした中東各国の競技力向上方策に本連盟が対抗しきれない現実を考えると、アジアを軽視することは、2020年東京オリンピックに向けて非常に危うい状況に陥ることとなるであろう。昨年の仁川アジア大会に向けて情報部では「①2013年のアジアランキングからの種目ごとの競技力分析」、「②2006～2013年のアジア選手権・アジア大会の1～8位の入賞記録の推移」、「③国際的なレベルの競技者が主に出場した2014年ダイヤモンドリーグでのアジア各国競技者の活躍状況」などを、情報として提供してきた。これらの情報は、単なる数値や競技記録の羅列であるが、それぞれの競技記録の関係を各競技者について読み解くことによって、競技者のコンディションや状況の把握は完全とは行かなくとも、おおよその把握は可能となるものである。本年度も同様な情報収集を行ない、アジア選手権のみならず世界選手権も含めた戦略情報が提供できるよう努力していきたい。数値を中心とした情報が、「情報」の英語訳である「INTELLIGENCE」に昇華でき、ヨーロッパを中心としたスポーツトレーニング学で扱われている「競技論」に結びつくような形式で、「知」を提供できればと考えている。

なお、表1は、2014年アジアランキングからの競技力分析の一部である。特に記しておきたいのは、2013年のランキングで日本選手は16種目でトップを獲得したが、2014年は6種目に留まっている。ある面では、日本の陸上競技のトップレベルに低下が起き、今後、懸念されることである。

表1 2015年武漢アジア選手権 参加国 戦力分析
2014アジア陸連のTop10リストより記録を収集した(傑は、1ヶ国2名でのランキング)

男子種目	2014アジアランキング 傑	7位以内にランクインしている国(国名の後は順位)	女子種目	2014アジアランキング 傑	7位以内にランクインしている国(国名の後は順位)
100m	1 993 3 1010 6 1022	日本 2,4,5,7 中国 3,6,7 993 Ogunode カタール	100m	1 1123 3 1139 6 1145	カザフスタン 1,6 インド 3,7 日本 2
200m	1 2006 3 2039 4 2044	日本 2～5,7 中国 5 2006 Ogunode カタール	200m	1 2285 3 2325 7 2357	カザフスタン 1,2,6 中国 3,5 日本 4
400m	1 4443 3 4546 7 4598	日本 3～5 サウジ 1 バーレーン 2	400m	1 5111 2 5173 3 5206	バーレーン 1,6 ベトナム 3,7 インド 2
110mH	1 1323 3 1349 7 1361	中国 1,4 日本 5,6 韓国 2	100mH	1 1272 2 1293 7 1317	中国 1,3,6 カザフスタン 2 韓国 7 ウズベキスタン 4 日本 5
400mH	1 4940 3 4955 6 5000	日本 2,4,6,7 カザフ 1 バーレーン 3	400mH	1 5459 3 5649 7 5743	バーレーン 1 日本 2,5,6 中国 4,7 ベトナム 3
4x100mリレー	1 3799 2 3834 3 3874	中国 1 日本 2 韓国 3	4x100mリレー	1 4283 2 4374 3 4376	中国 1 日本 2 カザフスタン 3
4x400mリレー	1 3:01.88 2 3:04.03 3 3:04.03	日本 1 韓国 2 サウジ 3	4x400mリレー	1 3:28.68 3 3:32.02 7 3:39.90	インド 1 日本 2 中国 3
紙面の都合上省略					
十種競技*	1 8308 3 7879 7 7572	日本 1,2,6,7 ウズベキスタン 3 中国 4	七種競技	1 5912 4 5519 7 5424	ウズベキスタン 1,3 中国 2 台湾 4

・日本選手が1位にランクされている場合は、1位のところに■で示した
 ・単純に計算すれば、男子4種目、女子2種目、計6種目で金メダルが獲得できる(2013年のランキングでは16種目であった)
 ・中長距離等の持久系種目については、当日のレース展開、気象条件により優勝タイム等は大きく異なることが予測される
 ・高さを競う競技については、バーのあげ方の設定により大きく異なることがある
 ・中国はアジア選手権、世界選手権のホスト国のため、国威発揚の場として展開するであろう
 ※2015年からのシーズンの記録は含まれていない

強化関連情報

強化委員会

U19オリンピック育成競技者長距離海外研修合宿 (オーストラリア・メルボルン) 報告

強化育成部副部長 中長距離主任 荻原知紀

研修合宿期間：2015年1月21日(水)～1月30日(金)

研修合宿場所：オーストラリア ビクトリア州メルボルン

派遣選手

- <男子>
- 下 史典(伊賀白鳳高校3年)
 - 加藤 拓海(成田高校3年)
 - 湊谷 春紀(秋田工業高校3年)
 - 坂口 裕之(諫早高校3年)
- <女子>
- 関 紅葉(立命館宇治高校3年)
 - 青木 和(益田清風高校3年)
 - 山本 菜緒(常葉菊川高校3年)

スタッフ

荻原知紀(強化育成部副部長)、中山 隆(強化育成部)
藤永佳子(強化育成部)、杠 大樹(トレーナー)
柴崎真木(管理栄養士)

1. 合宿の目的

- 海外でのトレーニングや外国人選手との交流を経験することにより、国内と海外の違いや国内では体験できないトレーニング環境の中で学んだことを生かし、世界で戦うことへの意欲を高めさせる。
- 海外合宿の中で、食生活の重要性を認識させるとともにアスリートとしての栄養管理のあり方を考えさせ、自ら食材を調達し調理することができる能力を養う。
- 異文化の中でコミュニケーション能力を養い、外国人選手に対しても積極的にアプローチできる能力や態度を養う。

2. 合宿での成果

- オーストラリア・メルボルンでの合宿は今回で4回目となる。今回も天候に恵まれ、予定通りのスケジュールを実施できたことに感謝している。

また、今年は錦織圭選手が活躍した全豪オープンテニスやサッカーのアジアカップがメルボルンで開催されており、まさにスポーツを通して世界中から注目を浴びている都市であると実感できた。その中で、U19の選手達が初めての海外合宿を体験できたことはモチベーションを高めるためには効果的であったと感じている。

練習については、今回もオーストラリア陸連所属のTimコーチの指導の下、練習場所を計画的に移しながら計5回の合同練習を行った。合同練習のメンバーはオーストラリアのジュニア～シニア選手で、日本と違って異年齢の選手が同じ時間帯に同じ場所で練習をするという環境の中で一緒に練習をさせてもらった。

トレーニング内容は、主にオリンピック記念公園やターフトラックでのインターバルトレーニングと郊外でのヒルトレーニンングであった。

特に、ヒルトレーニンングでは二か所の国立公園で一回目はインターバルトレーニングを行い、二回目はロングジョッグを行った。同じヒルトレーニンングでも、場所や内容を考え、変化に富んだ練習スケジュールを組んで頂いた。ダンデノン国立公園でのヒルトレーニンングでは、Timコーチがシドニーオリンピック女子5000m銀メダリストのソニア・オサリバンさんを連れてきてくれた。U19の選手らはその風格とオーラに偉大なアスリートであると感じていたが、オサリバンさんと気軽にコミュニケーションをとる機会に恵まれ大変勉強になったと思う。その際にオサリバンさんの3000mの自己記録(8分21秒64)を聞いて男子選手が驚愕していたことが印象的であった。

また、日本では見ることもない芝の400mトラックに今年も連

れて行ってもらった。そこではオーストラリア代表であるシニア選手とも一緒に練習をさせてもらった。U19選手たちは世界で戦っている選手の質の高い練習をこなすことで、自分の力の足りなさを実感しながらも、世界で戦うことへの意欲がさらに増しているようだった。

さらに、今年は初めて競馬場での練習をさせてもらった。千葉国際クロスカントリーのシニア女子で優勝したバックマン選手も一緒に練習をした。男子と女子に分かれての集団走で走行距離は約7km～12km程度あった。その時の設定は、タイムではなく心拍数170でペースを決め、ハートレートモニターを使用してトレーニングを行った。

今年も昨年と同じ印象であるが、コーチは極力固い路面を使っている練習を避けており、日本で行うロード走については驚いていた。路面を配慮したトレーニング計画を作成することで、いかに故障させずに継続して練習することができるかが重要であるとTimコーチは言っていた。

- 今回の合宿では、管理栄養士の柴崎真木さんに帯同して頂いた。ホテルの部屋も自炊できる4人部屋にもらい、男子2回、女子2回の夕食を自炊にした(1回は男女それぞれ昼食を自炊)。

柴崎さんはシニア選手の海外合宿は慣れているとのことであったが、ジュニア選手の海外合宿は初めてであった。その中でU19選手に栄養指導や食材の調達の手伝いや調理の仕方など、丁寧に分かり易く教えて頂いた。選手らは調理経験もほとんどなく栄養についての知識も断片的で乏しい状態であった。しかしながら、自分達で献立を考え調理することで、積極的に栄養に関する知識を身につけてトレーニングやコンディションングに活かそうという考えが芽生えてきた。さらに、選手らは自炊という共同作業をすることで、選手間のコミュニケーションも良好となりチームジャパンとしての意識も高まった。また、柴崎さんの適切な指導により、選手から「食べることに関しての考え方が変わった」「もっと食べることに考えてほしい」「調理ができるように家で練習します」などの声が聞かれ、食に対する関心と理解が深まった。

管理栄養士を派遣することにより、献立の立て方や食材の栄養素や栄養価についての知識を得たり、選手たちが自ら質問をしたりして、アスリートとしての食生活の重要性を学んでいたように感じた。一日のうちの2時間程度であるが、有意義な時間を過ごすことができた。

- メルボルンの治安は良好で、世界の中でも安全な町の一つである。しかし、どの国も同じであるがいくら安全な街であっても、事故や犯罪に巻き込まれる可能性は必ずある。その危険性を念頭においた上で、危険な場所には近づかないことや自分の身は自分で守ること、単独行動はしないなどの諸注意は常に行なった。練習を中心に組んでいたために、自由時間もわずかで、観光をする時間はほとんどなかった。そのなかで、フリーの半日をメルボルン動物園で過ごすことにした。現地集合としたので、選手らはそれぞれの交通手段で集合していた。メルボルンの生活にも慣れ、予定と違う場面もあったがトラブルなく現地の生活環境に適應していた。練習の場面や生活の場面でも、積極的に現地のオーストラリア人に話しかけることが海外合宿の目的でもある、コミュニケーション能力を高めること、ができたと感じている。今回の合宿で選手らは、世界で活躍する選手になるためには語学力やコミュニケーション能力が必要であることに気がついたと思う。

まとめ

高校3年生のトップ選手をこの時期にメルボルン合宿に連れて行くことは大変有意義である。また、食生活も含め海外での

合宿経験をする事で、将来の日本代表として世界で戦うことに対する意欲も高まったと思う。

今年で4回目のU19の海外合宿であったが、初めてスタッフとして女性コーチを派遣した。練習を一緒にしたり、自身の体験談を選手に伝えたりする事で女子選手とスタッフの信頼関係も深まり、長期の海外合宿であるにも関わらず心身共に不安定な選手もでなかった。やはり、女性コーチがいることの安心感があったのではないだろうか。

さらに7泊10日の合宿期間の中で、海外の選手と交流を持ちたり自炊をしたりすることで、自立心やチームワークが芽生え、社会人・大学生生活に入る前のU19選手にとってはタイムリーであったと思う。また、トレーナーの杠氏にも大変感謝している。そして、日本では経験できない練習を数多くこなせたことは、U19選手にとっても大きな自信となりモチベーションを向上させるためには最適であった。昨年の世界ジュニア選手権や箱根駅伝などでU19海外合宿に派遣された選手が活躍している。今回の派遣選手にも、この経験を活かしてシニアで活躍してほしいと願っている。

最後に、今回の派遣選手から「2020年東京オリンピックを目指したい」という明確な目標を聞くことができた。まさに、ターゲット世代であるU19選手に大切なことは、国際経験を一つ一つ積み上げながら（世界ユース選手権・世界ジュニア選手権・世界クロスカントリー等）、それを自分の財産とし、国際大会に立った時の自らのイメージを明確に描ける選手として成長していくことではないかと感じる。3月末の2015世界クロスカントリーにもジュニア世代の代表として世界で戦った選手が数多く入っている。

しかしながら、ターゲット世代も含め、ジュニア選手の発掘と強化を全国のジュニア指導者が協力して担うことを忘れてはならない。Timコーチがしきりに言っていた。

「コーチがhappyでなければ、選手もhappyになれない」と。

U19オリンピック育成競技者海外研修合宿 (オーストラリア・シドニー) 報告

強化育成部長 山崎一彦

2015年2月17日から27日までの11日間で、ダイヤモンドアスリートを対象とした海外研修合宿をオーストラリア・シドニーにて実施した。参加選手は北川貴理、岩本武、山下潤、サニブ

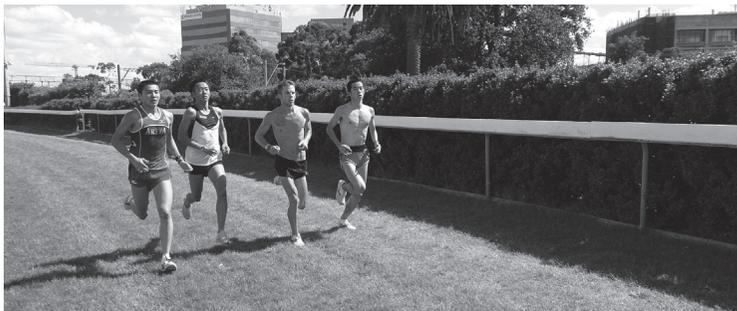
ラウン・A.ハキームの4名、コーチングスタッフは、山崎一彦（強化育成部長）、山村貴彦（強化育成委員）、常友綾二（トレーナー）、石川三知（管理栄養士）の4名だった。また現地コーチとして新進気鋭名高い跳躍専門コーチであるA.スチュワート、ストレングスコーチとしてNSWIS（New South Wales Institute of Sports）のスタッフに指導依頼した。

海外研修合宿の趣旨は、通常の強化合宿と言われる「大勢の選手と、効率の良い練習をして、食事が自動的に出てきて、宿舎からグラウンドまでが近くで、明日の練習のために寝る。」といった合宿とは真逆のコンセプトで実施した。すなわち、「鉄道と徒歩で移動が1時間、外国人コーチとなんとなくわかるコミュニケーションで練習し、朝晩はきちんと自炊、コンディショニングはセルフケアを教わる。」といった具合であった。また主な習得目的は、①海外コーチなどとコミュニケーションをとる、②移動、食事などの生活が自分のできるようにする、であった。

本合宿の新しい試みとして、スプリンターには育成段階は走ることだけに限らず、跳躍トレーニングを取り入れた。2020東京オリンピックプロジェクトチームでは、タレントトランスファーを推進している。日本代表選手になって世界的に活躍した選手のほとんどは、選択した種目の他にも様々な種目に挑戦しながら強くなっていった。もう一つの目的は、スプリント練習よりも技術性の高い跳躍の方が、英語で体の部位や動き方をコミュニケーションできるからだ。

参加者4名ともダイヤモンドアスリートとしての自覚があったのか、競技に対しての意識や生活も自分たちで積極的に改善していこうという言動が常にあった。来年大学に進学する北川、岩本は、大学の生活を意識して積極的に調理と栄養を実践的に学ぼうという姿勢が見られた。課題としては頑張れば手の届きそうな世界ジュニア選手権のような国際大会がないことから、今シーズンのスケジュールを問うと、具体的な答えが返ってこなかった。これは、高校3年生全体の問題点である。強化育成部でも常々意識しているが、オリンピック競技者には更に具体的な話を個人的にケアしていかなければならないと痛感した。来年度高校2年生と3年生のサニブラウンと山下は、世界ユース、インターハイ、インターハイ後の海外転戦などをきちんと見据えて、日本の競技会と広い視野での展開を考えているようであった。

たった11日間でも、4人それぞれに成長できた。これを最低10年続けられるように応援して見守りたい。



U16ジュニアブロック研修合宿報告

普及育成委員会普及育成部副部長 舟橋 昭太

2013年度に引き続きスポーツ振興くじ助成金の支援を得て、中学生のブロック合宿（北海道、東北、関東・北信越（合同）、東海、中国、九州）が実施され、2014年度で2回目となった。

ブロック合宿を実施する意義は、「都道府県合宿」→「U16ジュニアブロック研修合宿」→「U16トップトレーニングキャンプ」とU16の選手がステップアップできる道筋ができたことにある。2012年度までは、都道府県単位の合宿がほとんどであり、ブロック単位での実施は関東のみであった。唯一都道府県を超えて選手がライバルとしてではなく仲間として切磋琢磨できる機会はU16トップトレーニングキャンプであった。その意味で、2013年度よりブロック単位で合宿ができるようになったことは、U16世代の選手及び指導者にとって都道府県合宿の次のステップを意識することができるようになり、また横の繋がりを持つことができる貴重な機会である。今回のブロック合宿では、各ブロックのタレント発掘、競技力の向上、競技者の意識の向上、指導者の指導法の向上など様々な面で収穫があった。もちろん課題も多く、費用面、参加人数、会場の確保、開催時期の問題、運営方法の問題等が挙げられる。これらの問題も、引き続きブロック合宿を開催していくことで解決していきたい。これらの道筋を経験した選手がその後、世界ジュニア選手権やユースオリンピック等の国際大会やその後の世界選手権、オリンピックへ羽ばたいていくことを期待したい。

2014年度 U16ジュニアブロック研修合宿

ブロック	都道府県	日程	開催地	会場	選手数(人)	指導者数(人)
北海道	北海道	1/9~1/11	北海道	きたえーる、セキスイハイムアリーナ	44	16
東北	青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島	12/6~12/7	宮城	宮城野原陸上競技場	240	48
関東	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨	12/26~12/28	群馬	正田醤油スタジアム群馬	540	128
北信越	新潟・長野・富山・石川・福井					
東海	静岡・愛知・三重・岐阜	1/10~1/11	静岡	小笠山総合運動公園 エコパスタジアム	160	40
近畿	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山	12/26~12/28	兵庫	明石公園陸上競技場	344	75
中国	鳥取・島根・岡山・広島・山口	12/26~12/28	広島	コカ・コーラウエスト広島スタジアム	102	20
四国	香川・徳島・愛媛・高知	12/26~12/28	香川	丸亀競技場	100	17
九州	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄	12/26~12/28	熊本	うまかな・よかなスタジアム	177	27
合計					1,707	371

各ブロックの状況

<北海道> (担当 山岸 正直)

北海道ブロック研修合宿は、1月9日～11日にきたえーる、セキスイハイムアリーナ、ホテルハシモトを使用して開催した。参加者は選手44名、指導者16名であった。

室内で狭いスペースではあったが、基本的な動き作りを中心とした内容をしっかりと行うことができた。指導者も選手一人一人の動きをチェックし、各学校に戻ってからの練習内容などアドバイスが十分できていた。



負担でも選手を数多く参加させたい意向が強く、昨年よりも33名の選手増となった。

東北はこの時期、既に積雪もあるため、比較的積雪の少ない宮城県で合宿を開催できることは、非常にありがたい。今年度は屋内練習場が完備されている「宮城スタジアム」が改修工事のため使用できず、降雪の場合はどうするか心配されたが、無事2日間の日程を遂行することができた。



<東北> (担当 本間 拓)

東北ブロック研修合宿は、12月6日～12月7日に練習会場（宮城野原陸上競技場）、宿舎（アークホテル仙台、アパヴィラホテル、ホテルグリーンマーク、ホテルルートイン多賀城、ホテルパールシティ仙台、ホテルメルパルク仙台）を使用して開催した。

参加者は選手240名、指導者48名であった。昨年同様、旅行業者を本県（山形）担当とし、一括して宿泊場所を斡旋した。

各県とも選手・指導者を含め40名以内に限定したが、各県

<関東・北信越> (関東担当 桑原 恵二)

関東・北信越ブロック研修合宿（関東）は、12月26日～12月28日に正田醤油スタジアム群馬他3ヶ所、伊香保温泉 森秋旅館他2ヶ所を使用して開催した。

参加者は選手540名、指導者128名であった。

26日正午には全13都県の選手・指導者ともに集合し、午後1時から開講式。午後1時30分からブロックごとに種目別練習を行った。翌27日は、前日同様ブロックごとに種目別練習を行ったが、寒さを吹き飛ばすような熱気あふれる練習をすることができた。また、夜は栄養士による栄養学の講義を宿舎ごとに実

施した。最終日は午前中のみブロックごとに種目別練習の仕上げを行った。正午から閉講式を行い、2泊3日の合宿が無事終えることとなった。



<関東・北信越> (北信越担当 酒井 剛)

関東・北信越ブロック研修合宿(北信越)は、12月26日～12月28日に群馬県正田醤油スタジアム群馬他、しん喜・ホテルとどろきを使用して開催した。

参加者は選手540名、指導者128名であった。

昨年に引き続き、関東・北信越ブロックの合同開催とした。当日はやや冷たい風が吹く時間帯もあったが、天候に恵まれ大きな事故もなく無事終了した。昨年に比べ初日こそややおとなしさを感じたが、日程が進むにつれ、500名を超える参加者が互いに刺激し合い、貪欲に学ぼうとする姿勢を前面に出しての合宿となった。2年間、本合宿開催にあたり大変なご尽力をいただいた、関東及び群馬県関係者の皆様に感謝申し上げます。



<東海> (担当 鳥居 俊秀)

東海ブロック研修合宿は、1月10日～1月11日に小笠山総合運動公園エコパスタジアム、浜松市内のホテルを使用して開催した。

参加者は選手160名、指導者40名であった。

実績の豊富な各指導者の下、選手は練習にたいへん意欲的に取り組んだ。指導者・選手ともに収穫の多い合宿となった。来年度から北信越ブロックとの合同開催になるため、種目によっては男女別にするなどグループを増やす予定である。



<近畿> (担当 奥野 耕太郎)

近畿ブロック研修合宿は、12月26日～12月28日に明石公園陸上競技場を使用して開催した。毎年行っている兵庫県の合宿に近畿合宿を重ねたため参加者は選手344名、指導者75名と大所帯であった。

練習形態は短距離・ハードル・中距離・長距離・跳躍(幅三段・高跳・棒高)・投擲(砲丸・円盤)に別れ練習を進めた。2日目午前には兵庫県小学校選抜も合宿に参加



し、いい雰囲気での練習ができた。ゲストコーチに砲丸投日本記録保持者の山田壮太郎選手、日本インカレ・チャンピオン中野瞳選手、福富茉莉奈選手、インターハイ・チャンピオン石山歩選手、大学生も多数参加してくれ活気にあふれた合宿になった。

<中国> (担当 坂口 英樹)

中国ブロック研修合宿は、12月26日～12月28日にコカ・コーラウエスト広島スタジアム、ダイヤモンドホテルを使用して開催した。

参加者は選手102名、指導者20名であった。

今年度は短距離と跳躍の2ブロックにしぼり実施した。この度の合宿では、各種目の基礎となる“走り”をメインテーマとし、民内利明先生を外部講師としてお招きして、“走の基本”を中心とする走練習と専門練習に取り組んだ。生徒・指導者ともに有意義な学びの場となった。

また、天候にも恵まれ、選手たちはお互いにライバル意識を持ちながら、意欲的に取り組んでいた。“勢いのある中国ブロック団”として、来シーズンも勝負に挑む!



<四国> (担当 高橋 利彰)

四国ブロック研修合宿は、12月26日～12月28日に香川県立丸亀競技場、オークラホテル丸亀を使用して開催した。

参加者は、選手100名、指導者17名であった。

昨年度に引き続き、四国ブロック合宿は、第41回全日本中学校陸上競技選手権大会香川大会の会場である香川県立丸亀競技場で行われた。全中地元開催に向けた強化スタッフ(チーム香川)を中心に、各県の指導者と連携をとりながら研修合宿を進めた。

今回は栄養指導だけでなく、四国医療専門学校の協力を得て「発育発達・ケガの防止について」の講演会を行った。



<九州> (担当 沢田 修)

「九州はひとつ」の合言葉のもと、12月26日～12月28日に2017年全中会場の熊本県民総合運動公園(補助競技場)と水前寺競技場で行った。

選手177名、指導者27名(各県3名程度)の参加であった。

開講式に続き、栄養学の講義。その後、専門練習に入った。計4回の専門練習はとても充実したものであった。2017年までは熊本での開催の予定である。昨年に引き続き、すばらしい合宿になった。



アジア陸上競技連盟 (AAA) 理事会報告

国際委員長 田中克之 (AAA 副会長)

3月12日、第80回アジア陸上競技連盟カウンスル会議(理事会)がインドネシアのジャカルタで開催された。以下はその報告である。

1. ダハランAAA会長の冒頭発言

(1) 前AAA会長のスレッシュ・カルマデイ氏(インド)を名誉会長に推挙すること。

(2) オセアニアとの連携・協力を強化すること。

①本件についてはデアック IAAF 会長の示唆もあり、オセアニア地域のガードナー会長とも話をしてきた。

②具体的には両地域にIAAFが設けているRDC (Regional Development Centre = 地域普及センター) 活動及び競技会に相互乗り入れの形で参加を認めることである。後者については既に、ニコラス事務総長からAAA加盟団体に「5月開催のオセアニア選手権へのオープン参加を前向きに検討して欲しい」旨の案内を出している。

(3) アジアの陸上競技発展途上国を対象にした資金協力や技術協力を促進すること。

これについては武漢でのアジア陸上競技選手権大会時に希望国選手を対象にした現地での講習を中国陸連にて行う予定になっている。また5月のカタールでのアジアユース選手権大会時には、アジアオリンピック評議会(OCA)の協力も得て同様のことを実施したいと考えている。

(4) 武漢でのAAA総会時にセミナーを実施すること。

武漢での総会時に各国代表を対象にした「若者(いわゆるYジェネレーション)を如何に陸上競技に取り込むか」というようなテーマで行いたいと考えている。

(5) 6月のAAA総会、8月のIAAF総会での選挙は「陸上競技の発展」の視点から行うべきだと考えていること。

AAA、IAAFの選挙は陸上競技の将来を決める重要な選挙になる。AAA加盟団体には誰が、どの国が陸上競技の発展に貢献しうるのかということを念頭に置いて選挙に臨んでもらいたいと考えている。

2. 事務総長報告及びマーケティングの現状

(1) ニコラス事務総長から前回理事会以降の事務局活動及び財務報告が行われた後、中国のドゥ第一副会長からAAAの商業代理権を持つTSA社との関係について説明がおこなわれた。

3. アジアの大会カレンダー

(1) コンドラット副会長(カザフスタン)よりアジアの主要大会の開催年次変更の提案が行われた。

具体的には(イ)アジア選手権は2015年の後は2016年、2018年、2020年と言った偶数年開催(換言すれば世界選手権が開催されない年の開催)(ロ)アジアジュニア選手権については2016年の後は2017年、2019年と言った奇数年(世界ジュニア選手権が開催されない年)開催、(ハ)アジア室内選手権については、2016年の後は2017年、2019年と言った奇数年(世界室内選手権が開催されない年)への変更。

(2) 以上の提案に対し各理事から賛否の意見が述べられたが意見を集約するにはいたらず、またOCAがアジア大会開催時期について新しい決定を行うまで様子を見る要があるとの意見も出されたため、結局ダハラン会長、ニコラス事務総長、競技コミッションの委員長であるテイゴル副会長、コンドラット副会長が再度検討しその結論を次期理事会に報告することになった。

4. AAA憲章とルール改正案

(1) 日本陸連から出された憲章改正案、ルール改正案について田中より「日本の改正案は(イ)最近のアジア陸上競技界の実情を憲章やルールに反映させること(ロ)IAAF憲章と齟齬をきたしている部分をIAAF憲章内容に合致させることを目的として提案されたものである」ことを説明の上審議に入ったが、結論から言えば一部の字句の修正が行われたものの全ての提案が承認された。日本陸連からの重要提案のひとつは、アジア記録の承認方法が現在のIAAF規定と異なるところを全てIAAF憲章に合致させる提案であったが、これについては何の異議もなく我が方提案は承認された。

5. その他

(1) 実施済の第17回アジア大会(インチョン)、アジアビーチゲーム(タイ、プーケット)、第15回アジアマラソン選手権(香港)の技術代表報告が行われた。

①このうち、初めて開催されたビーチゲーム報告では(イ)12カ国/地域から男子選手110名、女子選手67名が参加したこと、(ロ)実施種目は男女とも60m、砲丸投、走幅跳、走高跳、クロスカントリー(6km)、メドレーリレー(4×60m)、(ハ)波打ち際の砂浜で行われたのはクロスカントリー、その他種目は純粋の砂浜ではなく、砂浜に隣接する防風林中にある固めの砂場で行われたこと、(ニ)60m走ではスターティング・ブロックを使用したガスパイクで走った選手、裸足で走った選手双方が存在したこと、(ホ)今後、ビーチ

での陸上競技を実施するには、開催地の砂地の条件を考慮して妥当なルールを作ることが必要になること(例えば柔らかい砂浜ばかりのところでは、スターティング・ブロックは使えないし、スパイクでは走れない)等の説明・指摘が行われた。

- ②またアジア大会については(イ) 役員の英語能力に問題があったため決定が遅れる等の問題が生じた。今後は少なくとも競技サイトに配置される主要役員は十分な英語力をもったものにする必要がある。(ロ) 競技役員は、観客が試合を良く見えるように競技中はイスに座ることが必要、(ハ) 監督会議はアジア大会のような大型の大会では必ず競技場で開催すること、(ニ) このような大型大会では3名のTD(技術代表、1名は道路競技、他2名はスタジアム競技を担当すること)が必要であるとの指摘がなされた。

(2) 次の大会についての進捗状況報告が行われた

- ①アジア選手権20km競歩(日本・能美)

②第1回アジアユース選手権(カタール・ドーハ):
ダハラン会長から既に34カ国の参加がある旨の説明があった。

③第21回アジア選手権(中国・武漢)

④アジアグランプリ(タイ):スラボン副会長より実施日の変更の申し入れ(7月5日、8日、12日を6月22日、25日、29日に変更)があった。

(3) 今後の大会開催地

ニコラス事務総長から次の説明があった

①2017年のアジア選手権については未だ立候補がない。

②2016年アジアジュニア選手権はベトナム(ホーチミン)で開催予定。

③2016年アジアクロスカントリー選手権は香港、バーレーン、中国が開催意図表明

④2017年アジアマラソン選手権は中国開催予定(開催都市未定)

国際陸上競技連盟 (IAAF) 競歩委員会会議報告

強化委員会競歩部長 今村 文男

スペイン東部のバルセロナでIAAF競歩委員会会議が開催された。

今次会議は、ロス・オブ・コンタクト検出システムの研究・開発プロジェクトを担当しているカタルーニャ大学の研究室視察を兼ねて2015年2月6日(金)から7日(土)に行われた。

日時: 2015年2月6日(金) 16:00~18:00(カタルーニャ大学バイオメカニクス研究室視察)、2月7日(土) 9:00~18:00(競歩委員会会議)

場所: スペイン・バルセロナ

議題: 開会宣言(ダミラノ委員長) / IAAFの活動および最新情報について / 前回議事録および懸案事項の確認 / ロス オブ コンタクト電子検出システム / ピットレーンについて / IAAF競歩規則の改正案について / 2014年IRWJセミナー / 2015年IAAF競歩チャレンジ / ドーピング問題-ロシア- / エリアレポート

【ロス・オブ・コンタクト検出システムについて】

ロス・オブ・コンタクト検出システムの研究・開発プロジェクトは、カタルーニャ大学にて、2014年9月より進められている。また、当初の契約の通り、競歩委員会に対する第一次答申が2014年12月に行われ

た。今回の会議では、大学が委員会を招待し、研究室視察と研究手法と経過に関する報告を受けた。

研究・開発プロジェクトの目的は、委員会の設けた、信頼性、正確性、柔軟性、価格などの仮定と制約のもと、競歩におけるロス・オブ・コンタクトの検出方法を確実に定めることが可能かどうかを明らかにすることであった。プロジェクトの現時点における答申・報告は、委員会の要求を十分に満たすものであった。報告の概要を以下に示す。

- ロス・オブ・コンタクト検出方法に関して何種類か試行・評価を行ったが、プロジェクトではその中から最適な方法を定めることができた。
- 今後6カ月間で明らかにする事項は以下。
 - ・ どの程度の精度でロス・オブ・コンタクト検出が可能かどうか
 - ・ インソールに装着するセンサーとして最適なハードウェアの選択
 - ・ インソールセンサーのバッテリーに代わる電源手段の検討
 - ・ インソールセンサーと競技者別端末および競技者別端末と中央制御装置との通信システムの検討
 - ・ 検出・分析システム上でロス・オブ・コンタク

ト発生を判断する変数の検討

- 2015年6月までを第一次研究・開発期間とし、この期間内に上記課題を達成するために、IAAFにて使用できるレベルの検出装置とそれに関するソフトウェア開発を行う。

競歩委員会としては、今後、研究の成果が良好なものとして完結すること、また、2015年6月までに競歩におけるロス・オブ・コンタクト検出システムの確かな手法が確立されることを確信している。この点を踏まえ、第二次研究・開発期間では、以下の点に焦点を当て進める必要がある。

- インソールセンサーとして最適な素材および製造方法の検討
- インソールセンサーの小型化
- 競技会ではバッテリーなしのインソールセンサーを使用することになるが、トレーニング環境にてバッテリー使用タイプのセンサーを使用し、実際にセンサーから端末、制御装置へのデータ転送が可能かどうかを、バッテリーを使用しないタイプと使用するタイプで検証する。
- 肉眼での目視によるロス・オブ・コンタクト判定の1/1000秒単位での閾値（年代別）の決定と、検出システム内でのロス・オブ・コンタクト検出閾値の設定

競歩委員会としてはIAAF競技会（北京世界選手権など）においてバイオメカニクスリサーチを行い、肉眼での判定状況の調査など、このプロジェクトを補完するようなデータ収集を行う予定である。

【ピットレーンについて】

3枚のレッドカードを出された選手を失格にするのではなく、決められた時間ピットレーンで待機させるピットレーンルールは多くの国の国内競技会において検証が行われている。主要国際競技会としては、2014年のユースオリンピックで最初に実施されている。また、今後の世界ユース選手権、世界ジュニア選手権、ワールドカップ競歩のジュニア種目で行われることとなり、競歩種目のこれまでとは違った形での普及の助けとなることが期待される。競歩委員会としては、多くの国でこのピットレーンが年代別競技会で採用されたこと、また、その報告が前向きであったことを望ましくとらえている。

また、この手法はIAAF競技規則に、競技運営として可能な手法として記載される必要がある。競歩委員会ではピットレーンを競技規則に盛り込む必要性について議論し、追記案を採択した。

【IRWJについて】

1. 2014年の国際競歩審判員（IRWJ）評価

2014年のIRWJ IAAF レベル評価は10月25日～26日にロンドンで行われ、新IRWJ IAAF レベルパネルには7名がIRWJ エリアレベルから新たに加わった。委員会としては候補者選抜に関し、いくつかの指摘があり、IAAF作業部会に以下の提案をすることとなった。

- エリアパネルからIAAFパネルへの推薦基準を明確にする。
- このガイドラインが各地域陸連に対して一様に行われているかを確認する。
- エリア代表の候補が国際審判員としての経験を積んでいることを証明するための評価方法を整備する。

2. 2014年IRWJセミナー

2014年評価では、参加者に対してセミナーを行った。その目的は以下。

- 新パネルへ期待することを示す。
- IAAFの競技プログラムを新たに示す。
- IRWJの役割と義務を示す。
- ピットレーン方法による競技会運営ガイドラインの方法を示す。
- ロス・オブ・コンタクトシステムの研究開発について言及する。
- 審判間のアイデアや経験の交換のフォーラム形成についてコンセンサスを得る。

競歩委員会としては、フォーラム形成に対する支持が満場一致だったことを喜ばしく捉えている。そして、フェイスブックのクローズドグループをコミッティーメンバーと同じように作成している。メンバーは現在69名である。

【2015年IAAF競歩チャレンジ】

2015年シリーズは3月7日のチワワからはじまる。新チャレンジ規程はIAAF パーミット競技会をよりアピールするものにする事と、現在は3月と4月に集中している競技会カレンダーを改善することに焦点を当てている。競歩委員会としてはこのことに期待し、また、2015年の状況を観察することにしている。会議の席上、サヴィル委員が2016年リオデジャネイロオリンピックに向けた参加標準記録突破とエントリー締め切りが2016年のキーとなることに留意して2016年カレンダーの第一草案の作成を開始すべきだと願った。

2015年レギュレーションにいくらか修正を加えたものが委員会の合意を得て、IAAFウェブに公開される。

大会観戦ガイド

IAAFワールドチャレンジ第3戦 セイコーゴールデングランプリ陸上2015川崎 兼 第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京) 代表選手選考競技会

▼日時：2015年5月10日(日) 競技開始時間 12時15分予定
(オープニングセレモニー 11時45分開始予定)

▼会場：神奈川県・川崎市等々力陸上競技場
神奈川県川崎市中原区等々力1-1-1

▼アクセス：

東急東横・目黒線、またはJR「武蔵小杉」駅より徒歩20分
東急東横・目黒線、またはJR「武蔵小杉」駅よりバス
(溝の口方面行)で「市営等々力グラウンド」下車徒歩5分
東急田園都市線「溝の口」駅よりバス(武蔵小杉方面行)
で「市営等々力グラウンド」下車徒歩5分
JR南武線「武蔵中原」駅より徒歩15分
※駐車場は使えませんので、公共交通機関をご利用ください。

▼種目：

【IAAFワールド・チャレンジ】

<男子9種目>

100m、200m、800m、400mH、3000mSC、走高跳、棒高跳、
三段跳、やり投

<女子8種目>

100m、200m、400m、1500m、100mH、走幅跳、砲丸投、
やり投

【IAAFハンマー・スロー・チャレンジ】

<女子1種目>

ハンマー投

【オープン】

<女子3種目>

400mH、4×100mリレー、4×400mリレー

▼テレビ放映予定：TBS系地上波で放送 15時00分～16時54分

▼公式HP：<http://goldengrandprix-japan.com/>

▼チケット：好評発売中

ゴールデンシート【豪華特典付き】 先着400席限定

高校生以上：10,000円、4才～中学生：7,000円、
3才以下：無料(座席が必要な場合は有料となります。)

①メインスタンド観戦エリア『ゴールデンシート』にて観戦
※メインスタンド真ん中(特別シート)となります。

エリア内自由席/S・A・B席への移動可能

②オリジナルIDカード発行(オンネーム・ストラップ付)

③限定オリジナルグッズ(非売品)をプレゼント

④公式プログラム・大会ポスターを進呈

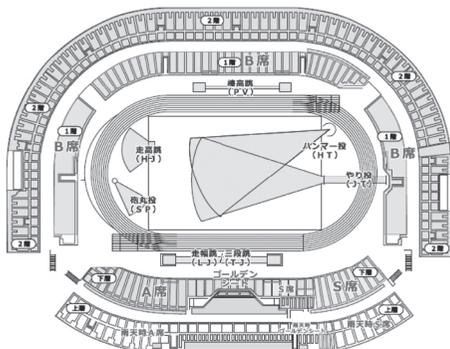
⑤参加選手サイン入りナンバーカードプレゼント

※選手を指定することはできません。

⑥特製弁当配布(ドリンク付き)

⑦大会名シーンポストカード5枚組プレゼント

※6月中旬の発送を予定しております。



⑧公式練習(前日)見学会実施

※等々力陸上競技場にて。参加選手は未定です。

問い合わせ先：トリニティ内

TEL：03-5456-8503(平日11:00～16:00)

E-Mail：tri-jim@siren.ocn.ne.jp

チケット購入はこちら！<http://foto.olahraga.jp/shopbrand/ct82/>

一般入場券のご案内

S席・A席 前売券ご購入の方のみ公式プログラム付!!

座席	前売り	当日
S席/一般(エリア内自由席)	3,000円	3,500円
S席/小学・中学・高校生(エリア内自由席)	2,000円	2,500円
A席/一般(エリア内自由席)	2,500円	3,000円
A席/小学・中学・高校生(エリア内自由席)	1,500円	2,000円
B席/一般(エリア内自由席)	—	1,000円
B席/小学・中学・高校生(エリア内自由席)	—	500円

※小学生未満無料。※S席はA・B席へ移動可能。A席はB席へ移動可能。

※団体割引は、10枚単位で販売(大会問い合わせ窓口にて前売券のみ対応。プログラムは付きません。)※シルバー割引(当日券のみ)は、60歳以上の証明書提示にて一般料金より50%割引(S・A・B席対象)。
※障害者割引(当日券のみ)は、証明書提示にて一般料金より50%割引。付添人1名まで同一料金(S・A・B席対象)。※各種割引詳細、車椅子席等のお問合せは大会問い合わせ窓口まで。

※風向きなどにより、競技位置が変わることがあります。ご了承ください。
※2階席は雨天、満席等の際、検校の上、開放する場合がございます。

前売り入場券販売所

■チケットぴあ(Pコード：828-947)

インターネット購入 <http://t.pia.jp/t/> (24時間購入可能)

電話予約：0570-02-9999 (Pコード予約)

※チケットの購入にあたっては、Pコードが必要となります。

店頭販売

・全国のぴあ店舗

※営業時間は店舗によって異なる場合がございます。

※所在地・営業時間は<http://t.pia.jp/guide/retail.html>よりご確認ください。

・セブンイレブン(24時間購入可能)

※店頭のマルチコピー機よりお買い求めください。

・サークルK・サンクス(7:00～23:00)

※店頭のカルワザステーションよりお買い求め下さい。

■ローソン(Lコード：39411)

インターネット購入 <http://l.tike.com> (24時間購入可能)

電話予約：0570-084-003 (24時間受付可能)

※チケットの購入にはLコードが必要となります。

店頭販売

・全国のローソン(24時間購入可能)

※店頭のLoppiよりお買い求めください。

■e+ (イープラス)

インターネット購入 <http://eplus.jp/> (24時間購入可能)

店頭販売

全国ファミリーマート

※店頭のファミポートからお買い求めください。

■CNプレイガイド

インターネット購入 <http://www.cnplayguide.com>

(6:00～翌1:00)

電話予約：0570-08-9999 (10:00～18:00)

※オペレーター対応

店頭販売

・セブンイレブン(24時間購入可能)

※店頭マルチコピー機のセブンチケットの項目よりお買い求めください。

■チケットに関するお問い合わせ先

大会問い合わせ窓口(ゴールデンシートを除くチケットのお問い合わせ等)

TEL 03-5974-1192(平日10:00～18:00)

JAAF
OKAYAMA

一般財団法人岡山陸上競技協会

〒700-0012 岡山市北区いづみ町2-1-11 岡山県陸上競技場内
TEL.086-214-3156 FAX.086-214-3156
http://www.tiki.ne.jp/~oka-rikkyou/

今年の新規大会の目玉「おかやまマラソン」(11月8日実施)の要項や主な協賛などがようやく固まりました。

15,000人が参加する中四国最大級と銘打った大会。大会の申し込みは、岡山県民優先枠が4月22日から29日まで、一般枠は4月30日から5月31日まで行われます。

岡山市内では初めての大規模フルマラソン。全国各地から大勢のマラソン愛好者が集まると期待されています。遠来のランナーに岡山の景色、食、人を存分に楽しんでもらえる大会になれば…と思っています。同時に、全国各地で都市型マラソン大会が乱立する中で後発大会としてどのような特色が出せるか、実行委員会の中で日々知恵を絞っています。

そして、何よりも大切なのが「しっかりと運営」だと思っています。運営の善し悪しが参加者の満足に直結します。市街地を走る大規模マラソンは岡山陸協にとって初めての経験ではありますが、念入りに準備をして大会を迎えたいと思っています。

岡山では、おかやまマラソンを皮切りに、2016年にインターハイ、2018年には全国中学校体育大会を開催します。インターハイ、全中開催に向け、メイン会場になる岡山県陸上競技場も年末から改修に入ります。若い競技者の夢舞台のリニューアルとともに、地元選手の強化で大会を盛り上げるだけでなく、中体連、高体連と密接に連携しながら、しっかりと大会運営をすることで、全国各地から集まった選手・関係者に岡山での良い思い出を作ってもらえればと考えています。

JAAF
HIROSHIMA

一般財団法人広島陸上競技協会

〒730-0011 広島市中区基町4-1 県立総合体育館
(公財)広島県体育協会内
TEL.082-223-3256 FAX.082-222-6991
http://www1.ocn.ne.jp/~hrk34/index.htm

2014年度後半のニュースといえば、世羅高校の全国高校駅伝での優勝である。3年ぶり8回目の全国制覇。しかも、3区からトップに立ち、最後まで独走し、2時間02分39秒と歴代4位の記録であった。2015年度も、更なる進化を遂げて、記録に挑戦してくれると信じている。

もう一つのニュースといえば、2014年2月に多くの人に惜しまれながら、幕を閉じた中国女子駅伝。2015年2月に駅伝の町、世羅町へ舞台を移し、2015中国女子世羅駅伝として復活した。各郡市から選ばれた中学生から一般までの女子選手が響をつなぎ、女性競技審判員が中心に運営にあたった。まさに女性による女性のための駅伝大会である。ピンクの幟旗が沿道に飾られ、道路が桃色に染まった。強風と雪の舞い踊る中のレースではあったが、県内から25チームの参加があり、すべてのチームが走り切った。この2つのニュースはどちらも、地域の応援や支援、強い繋がりがあっての成果である。これからも、地域との繋がりを大切にし、広島らしい大会の開催、選手の育成に努めたい。

(文責:企画広報委員長 藤原文代)

JAAF
YAMAGUCHI

一般財団法人山口陸上競技協会

〒753-0815 山口市維新公園4-4 維新百年記念公園陸上競技場内
TEL.083-920-6125 FAX.083-920-6125
http://yaaf.jp/

和歌山国体に向けて優秀選手を指定し、県体育協会競技スポーツ推進事業を活用して中学生・高校生を中心に計画的な強化を図る。

成年男子では、走幅跳、800m、砲丸投の入賞に期待がかり、特に小田大樹選手(日本大学・走幅跳)は日本代表として活躍することを期待している選手である。また、成年男子800mにおいて長崎国体で入賞した野村直己選手(山口大学)は競技歴1年半の選手であり、今後の成長が多いに期待できる。

成年女子では走幅跳、やり投、少年男子Aでは100m、少年女子A・Bの走幅跳等の各種目において上位入賞を目指し強化を図っていく。

都道府県対抗駅伝では、入賞を目指し、ジュニア選手の強化を図るとともに、ふるさと選手の確保に努める。具体策として、県内ジュニア選手の強化策として、強化拠点校を中心として定期的に合同練習会を実施し、チーム力の底上げを図る。

県出身のオリンピック金メダリスト田島直人氏の功績を継承するために、跳躍種目の一層の強化に取り組み、田島直人記念陸上競技大会の継続・発展を図る。

(文責:強化委員長 島田敏幸)

JAAF
TOKUSHIMA

一般財団法人徳島陸上競技協会

〒772-0011 鳴門市撫養町大鼻島字澤岩浜6-23
TEL.088-678-7914 FAX.088-678-7921
http://www.jaafokushima.com/

ここ近年、投てき陣の活躍が顕著であるが2014年度も全国的に大きな成果が上がった1年であった。中学生は全中女子砲丸投で馬場さくら選手(生光学園中学校3年)が4位に入賞、ジュニアオリンピック砲丸投では藤田駿介選手(美馬中学校3年)が8位に入賞した。高校生はインターハイ男子砲丸投で川口哲生選手(生光学園高校3年)が3位、幸長慎一選手(生光学園高校2年)が4位とアベック入賞を果たした(幸長選手は男子円盤投でも5位)。また女子では西川チカコ選手(城南高校3年)が女子砲丸投で豊永陽子さん(城ノ内高校卒業生・現生光学園教員)以来の全国優勝を果たした。また、幸長選手は日本ユース選手権で砲丸投をユース日本最高で、円盤投を日本高校記録で制するなど破格の強さを見せ、国体少年男子共通円盤投も制した。また小松将弘選手(生光学園高校1年)が1年生ながら日本ユース選手権・男子円盤投7位、国体少年男子B砲丸投4位、2年生の波多彩希選手(生光学園高校2年)が国体少年女子Aハンマー投8位に入った。学生陣も中学生に負けじと奮起した。中田恵莉子選手(中京大学4年)が日本インカレ、個人選手権の2大会で女子円盤投を制覇(日本インカレでは砲丸投でも入賞)、日本選手権においても砲丸・円盤の2種目入賞を果たした。居川汐里選手(四国大学2年)も女子ハンマー投で日本インカレ3位、個人選手権では念願の優勝に輝いた。今季大学に進学したハンマー投の村尾茶優選手(四国大学1年)も日本ジュニア選手権で5位入賞した。2015年度も昨年度以上に活躍してくれるものと大いに期待している。

事務局からのお知らせ

◆◆陸上競技ルールブック2015年度版、陸上競技審判ハンドブック2015-2016年度版を
4月より全国の書店、ネット書店で販売を開始しました。◆◆

陸上競技関係者や愛好家のための2015年度版ルールブック、審判員のための2015-2016年度版審判ハンドブックの販売を開始しました。改正のあった国際及び日本国内の陸上競技ルールを反映し、すべてのルールのほか競技場の仕様、全国の公認陸上競技場一覧などを掲載しているルールブック、競技規則を正しく把握して、審判技術の理解を深め円滑な競技会運営を実行するために審判員必携のハンドブック。お近くの書店にない場合は、電話またはホームページからもご購入いただけます。

お電話でのご注文の場合：0120-911-410（ベースボール・マガジン社 受注センター）

※受付時間 月曜日～金曜日 10:00～12:00、13:00～16:00（祝祭日を除く）

ホームページからご注文の場合：ベースボール・マガジン社のホームページへ。

<http://bookcart.sportsclick.jp>



◆◆2015年トラック&フィールドシーズンが始まります！◆◆

いよいよ今夏開催の第15回世界陸上競技選手権大会（2015 / 北京）の代表の座をかけた2015年トラック&フィールドシーズンが始まります！

4月からの競技会の情報は、公式WEBサイト

<http://www.jaaf.or.jp/fan/taikai/2015.html> に掲載しています。

是非、競技場でご声援をお願い致します！

◆◆陸連時報を本連盟公式ホームページで公開しています！◆◆

2013年1月号から陸連時報を本連盟公式WEBサイトで公開しています。

アドレスは、<http://www.jaaf.or.jp/rikuren/jihou.html> です。



陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩（陸連会長）
三宅 勝次（陸連副会長）
友永 義治（陸連副会長）
尾縣 貢（陸連専務理事）
原田 康弘（陸連強化委員長）
風間 明（陸連事務局長）
牧野 豊（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
本田香代子
森谷 真咲

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>